

地域交流特集

菩提寺北小学校 交流会

菩提寺北小学校 4年生 57名との交流会をもちました。温かい笑顔で歌や演奏などをきいておられました。その後のカルタとりでは皆さん真剣そのもの！！白熱の戦いを繰り広げられていたり、折り紙では教えあったりしてほのほとした雰囲気、笑い声の絶えないあという間の交流会となりました。



11/5
(金)

菩提寺センターまつり ～展示・バザー～

公民館で開かれた文化祭にピスガも今年初めて参加しました！！地域の方の展示作品や、地区ごとに模擬店を出店され、たくさんの方で活気に溢れたお祭りでした。ピスガからも入居者様にお手伝いいただき、一つ一つ心を込めて作ったキャンドルツリーを5名の入居者様とともに販売しました。来られた方は「かわいいね」と気に入って買ってくださり、見事完売しました！！今後様々な形で、地域の方などいろいろな人と出会える機会をもちたいと思います。



10/8 (金) 福井旅行

10月8日(金) 福井へ日帰りバス旅行に出かけました！！今回は、大型バスを貸し切り、ケアハウスの方27名、地域のるんるんクラブの方8名、職員6名の総勢41名の旅となりました。朝に出発し、職員扮するバスガイドのもと、クイズやカラオケなどで盛り上がりました。地域の方など普段あまりお会いすることのない人々との交流がもて、新しい出会いもあってより楽しい旅となりました。皆さん三方五湖のクルーズをととても喜んでくださり、福井に行ったことがある方でも三方五湖は初めてという方が多く、「良い思い出になりました」とおっしゃってくださいました。バスを降りられる時には皆さん両手にたくさん荷物を抱え、笑顔で「また行きたい」と声をかけてくださいました。



後宮俊夫・松代ご夫妻 牧会50年感謝会

後宮俊夫 牧師の礼拝説教要旨 (近江ちいろば会創業者)

2010年9月20日 びわこホテルにて
260名のご出席のもと盛大におこなわれました。

私は滋賀県の近江富士の裏側で、老人ホーム(ケアハウス ピスガこうせい)の建設に関わり、その近くに住んでおります。

私が88歳、松代が80歳そして、教団の補教師になって50年。それで牧会50年ということでお祝いをしようと企画してくれました。

牧会は二人でやったというより、ほとんど松代がしたというべきでしょう。ここにお集まりの人々は、松代との関わりが深いと思います。

象徴的に申しますと、教会の仕事を終えて、私が牧師館に帰ってきますと、牧師館につどっていた教会員が、「そろそろ帰るか」という状況でありました。教会の信徒のいろいろな出来事は松代を通して聞かされていたのです。

今日、これだけ多くの方々がお集まりいただいたのは、ただただ感謝でございます。私に感謝していただくより、私が皆様に感謝しなければならないのです。

私は、キリスト教にはむしろ反発をしていたのです。私は、真珠湾攻撃から第二次世界大戦に参加しました。その前は、海軍兵学校にいたのですが、海軍兵学校に入るのも繰り上げて本当は4月に入学するのですが前年の12月1日に入り、戦争になるかもしれないので4年の課程を3年で終えるということでありました。経済的に日本は圧迫されてきて、日本は大陸から撤退するようにアメリカから要求され、石油を止められたら産業の多くが停止するということで、戦争に突入したのです。11月15日に海軍兵学校を卒業し、いきなり連合艦隊に配属となり、兵学校は海に面している表棧橋が正門で、そこから兵学校の練習艦に乗り、呉に行きそして夜行列車に乗り横須賀に着き、比叡に乗り霧島と合流することになりました。その時も、いまの海軍の力で勝てるわけがないと思っていたのです。兵学校を430人卒業するが1年経ったらこのうち生き残っているのは10人ぐらいだろう。だから、生き残ったら元帥間違いないなどと言われていました。和平交渉がまとまれば戦争が回避されることになっていました。

しかし戦争に突入していき、戦争に負け、軍隊は解体され、職業軍人は公職追放で何もすることができなくなりました。命を捨てお国のため、日本が生きのこるためとやったことが、何だったのか。お前は悪いことをしたと言われ、世の中どうなっているのかと思いました。

世界を通じて変わらないモノは、何だろう。国が変わっても、時が変わっても変わらない真実は何だろう。これが、戦後の私の課題でした。

しばらく志摩で真珠の仕事をしていましたが、おもしろくなかったので辞め、ぶらぶらしていました。

京都で榎本保郎牧師が、神学生で若いのに献身的に保育園の仕事をしていました。母親が民生委員で、保育園に子供を入園させる世話をしていたものだから、若いのに

自分の財をなげうって保育所をして偉い人がいるものだと思っていました。こちらは仕事を探してぶらぶらしていたので、手伝いをする事になったのです。京都市内の古材を市内から伏見桃山へ大八車で運んで、それで改造して保育園を始めました。当時は保育所が制度化された時で、そのような建物でも認可されていたのです。後から聞いた話ですが、市の役人が、聖公会の会員だったので、便宜を図ってくれたということもありました。



当時、榎本保郎から、あれやれこれやれと保育園に引っ張り込まれていき、その後、洗礼を受け信仰を持つと言われましたが、私は反抗をしていました。保郎さんは素晴らしい働きをしているが、信仰は心の問題だと思っていたのです。頭水を垂らす洗礼を受けたからといって、素晴らしい人間になるわけじゃないと。それで保郎さんはカンカンに怒って「それがお前の罪だ」と言ったので、洗礼を受けませんでした。

こんな私が、牧師になっていくのですから、神様に感謝するほかないわけです。

戦争中に死ぬようなめにあったのに、生かされていた。これが神様の選びだと思っていましたが、胎内に造られるまえから世界の最初から神様に選ばれていたのだと今頃になって分かるようになりました。

すべての人間は、神様の民。信者でない人も神様の民。あんな奴と言われている人も神様に選ばれていると思うようになりました。

ここに集まれた皆様にただ感謝だけです。榎本牧師は、「主がなされたことは、この群衆を深く憐れまれた」ことであると教えていました。

悩み苦しむ人たちのことが最近になって分かるようになってきました。すべてをおさめておられるのは、愛にあられる神様に他ならない。神様が、こんな私をこのよう多くの人々と共に働けるように支え導いてくださった。それぞれの所にいろいろな局面があるのですが、全ての局面で働かれるのは、愛にいます神様です。

自分たちの身近なところにおられる人達に、愛の手を差し伸べていくのがイエス様の弟子である私のなすべきことであると信じています。

そうでなければ、この世界にキリストにある平和の実現はあり得ないのです。